

経営学部創設20周年記念号の発行に寄せて

経営学部長 照屋 行雄

神奈川大学経営学部は、学部創設以来、学部の理念と使命を具現化するため、バブル経済崩壊に伴う価値観の多様化とパラダイム転換の過程で、多くの独創的な教育改革を勇気をもって断行するとともに、「国際経営」という新しい研究・教育領域の理論的・制度的体系の確立に取り組んできました。情報化や国際化の進展する現代ビジネス社会の多様な領域の発見・開発と、新しい学問体系の研究・教育を行うことが学部の目的となりました。

経営学部は、1989年4月に本学で5番目の学部として開設され、2009年4月には学部創設20周年の記念すべき節目の年を迎えました。経営学部は、学部の創設理念を反映して、経営学部国際経営学科の名称のもとに一学部一学科編成となっています。教育実践として21世紀型の大学教育を目指して種々の改革を断行する一方で、研究・教育のテーマは広く「国際経営」と呼ばれる複雑多様な領域の解明におかれることとなりました。

この20年間の経営学部の教育活動の内容は実に多彩であり、その成果は大学教育における時代の先端を切り開き、多くの革新をもたらす貢献を果たしたと評価することができます。そして、経営学部のこのような教育活動の質を保証する強固な基盤は、教育スタッフによる旺盛な研究活動であることは言うまでもありません。『国際経営論集』は、本学部の教育スタッフがその研究成果を定期的に公表する重要な機関誌となっています。

ところで、私ども大学人は、我が国の高等教育事業を預かる立場から、基本的には学生の教育指導に最も多くの時間と努力を傾ける使命があります。学部の教育方針を共有し、担当する授業科目やゼミナールの教育方法に創意と工夫を加えて、教育内容の充実に不断の努力を払うことが求められます。入学する学生諸君の学力や関心の現状をよく把握し、実態に適合した指導のあり方を模索し、実践する必要があります。

他方で、自己の専門とする分野や関心をおいているテーマの研究に、真摯に取り組むことが強く求められます。日常がどんなに多忙であっても、継続して研究を積み重ね、しかも一定の成果を著書・論文等によって公表する責務があるといえます。確かに教育と研究は時間配分の面では、多くの場合対立するものです。学生の教育に熱心に取り組むほど、それに反比例して研究時間が少なくなることは間違いありません。

しかしながら、授業やゼミ等での教育指導に多くの時間を割かなければならない近年の学生の実状や、教学・入試等の大学業務が益々多忙となっている大学の現状を肯定するとしても、それらが個々人の研究成果の貧弱な結果を正当化することはできないということです。未来を切り開く学生諸君の知性や個性を育成する教育事業に従事する者に、怠慢があってはいけないと改めて覚悟を固める必要があります。

経営学部では、本39号を経営学部創設20周年記念号として特別に企画し、発行することと

しました。学部創設20周年を期に、改めて本誌発行の意義と成果を確認するとともに、経営学部における教育サービスの質を保証する本誌の一層の充実をはかることを企図したものです。経営学部に所属する専任教員と非常勤講師の先生方が、日頃の貴重な研究成果を学界や社会に対して公表する重要な媒体となっています。

教育研究機関として、その研究発表の機関誌を育てるということは大きな責務だと考えます。質の高い研究論文を数多く掲載して本誌の斯界での評価を一段と高めることに、それぞれの研究者が貢献して頂くことを切に願っています。本記念号に貴重な論稿を寄せて頂いた執筆者各位、並びに企画・編集の労を惜しまれなかった編集者各位のご協力とご尽力に対し、学部長として深甚なる謝意を表します。

神奈川大学経営学部は、学部創設20年の教育・研究活動とその成果を蒸留し、我が社会の未来を担う若い学生諸君の知性と個性の形成支援のため、また、世界の平和と人々の幸福、さらには学問や科学の発展に貢献するべく、次の20年に向けて間違いのない確かな歩み続ける決意であります。読者諸賢の本記念号に対する率直なご批判を賜るとともに、今後とも本学部の教育・研究事業に対し、格別のご理解とご支援をお願い申し上げます。